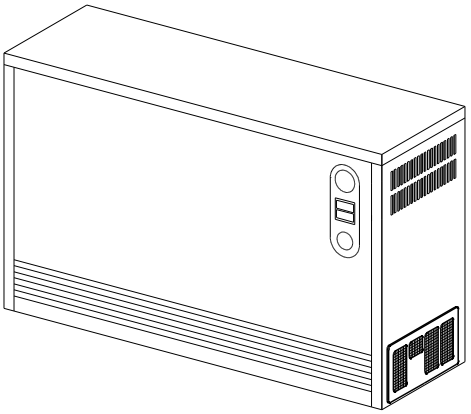
Dimplex®



電気蓄熱暖房器ユニデール

施工説明書

温風式(ローボーイ型)　　型番 VNDi 36JW　VNDi 50JW
VNDiシリーズ

もくじ

ページ

施工前に

仕様一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
取付寸法図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
オプション部品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
配線図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
配線工事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
配線工事時の注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

施工について

梱包内容の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
設置順序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
試運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

必要なとき

設置場所を移動する場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
故障かな？と思ったら・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

※施工される方へお願い

- この施工説明書の記載内容と異なる設置が原因で生じた故障及び損傷は、保証期間内であっても保証の対象となりませんので、正確な施工を実施してください。
- 工事終了後、施工説明書の内容を再確認し、“試運転”と“お客様への取扱説明”を行なってください。（お客様に安全・快適にご使用いただくために必要です）
- 工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡してください。
- 本暖房器施工時には、トルクスドライバーを使用します。（サイズ：T20）

MA130018A　14/09/30

仕様一覧表

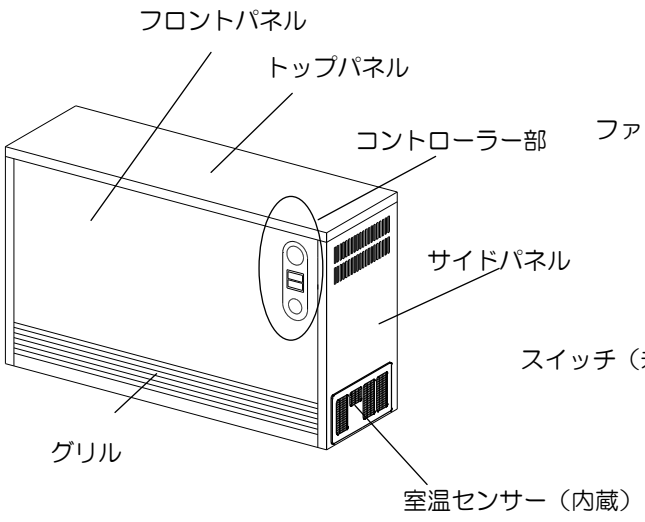
【 8時間蓄熱型 】

型　番		VNDi 36JW	VNDi 50JW
定格電圧	蓄熱	単相AC200V（50/60Hz）	
	ファン	単相AC100V（50/60Hz）	
定格消費電力	蓄熱	3,600W	5,000W
	ファン	18W	28W
シーズヒーター本数		3本	
蓄熱レンガ数※（パック数）		30個（10パック）	42個（14パック）
最大蓄熱量 kWh(kcal)		28.8(24,800)	40.0(34,400)
有効蓄熱量 kWh(kcal)		25.9(22,300)	36.0(31,000)
全質量（本体＋レンガ）		191kg	261kg
外形寸法（幅×高さ×奥行）( )内スペーサ含　mm		1040×484×250(295)	1340×484×250(295)
200V配線用遮断器の定格電流		30A	40A
200V屋内配線の最小電線太さ（銅線）	VVケーブル	直径2.6mm　(5.5mm^2)	直径3.2mm　(8.0mm^2)
	CVケーブル	2.0mm^2	3.5mm^2
安全装置		蓄熱温度過昇防止装置（115℃自動復帰型・150℃手動復帰型の２段階） 転倒時電源遮断スイッチ（15°以上傾斜）、吹出温度過昇防止装置	

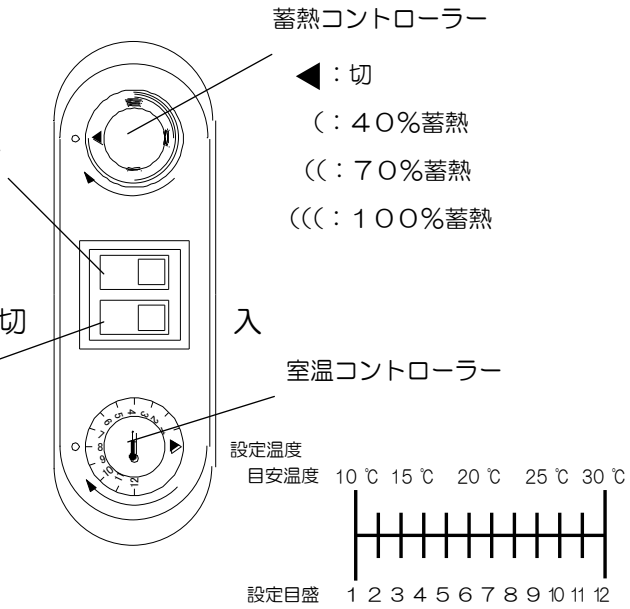
※蓄熱レンガサイズ（1 個あたり）：幅１５０　×　高さ４５　×　奥行２０８mm
※本商品は、タイムスイッチ機能を搭載しておりません。

各部の名称

本体外観



コントローラー部



安全上のご注意

施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

● 表示内容を無視した時に生じる人身への危害、財産への損害の程度を、次のレベルに分類し説明しています。

⚠ **警告**：施工を誤った場合、死亡または重症を負う可能性が想定される内容です。

⚠ **注意**：施工を誤った場合、傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される内容です。

● お守りいただく内容の種類を、次の記号で区分し説明しています。

🚫 禁止図記号　・・・・製品の施工において、その行為を禁止する図記号。

❗ 指示図記号　・・・・製品の施工において、指示に基づく行為を強制する図記号。

⚠ 警告

～設置に関して～

❗ **据付工事部品は、必ず付属品及び指定の部品を使用すること。**
機器の転倒や火災・感電のおそれがあります。

❗ **アース工事を必ず行なうこと。（D 種接地工事）**
故障や漏電の時に感電するおそれがあります。

🚫 **本体部は、次の場所には取付けないこと。**
火災・感電・漏電のおそれがあります。
①可燃性ガスの発生する場所、または溜まる場所。
②付近に燃えやすいものがある場所。
③水がかかる、または常時湿度が高い場所。
④階段、避難口などの付近で、避難の支障になる場所。

❗ **壁下地補強材を施工の上、付属の転倒防止ビスと壁固定金具で本体と壁を固定すること。**
地震などにより本体が倒れてけがをするおそれがあります。
※販売時期により固定方法は異なります。詳しくは販売店にご確認ください。

⚠ 注意

～設置に関して～

❗ **取付作業は、専門の設置業者が行うこと。**
機器の転倒や火災・感電のおそれがあります。

❗ **本体を設置する床には、根太補強を施すこと。**
床が変形したり、転倒時電源遮断スイッチが誤作動するおそれがあります。

❗ **本体重量に耐えられる強固で、本体が傾くような凹凸がない水平な床に設置すること。**
床が変形したり、転倒時電源遮断スイッチが誤作動するおそれがあります。

🚫 **じゅうたん・クッションフロア・畳などの上に直接設置しないこと。**
地震などにより本体が倒れてけがをするおそれがあります。

❗ **本体付近の壁紙などは熱で変色しない物を使用すること。**
空気中の温度差によってできる上昇気流の影響による熱やほこりなどによって壁面が変色するおそれがあります。

❗ **背面の壁材の仕上げは不燃材を使用すること。**
火災のおそれがあります。

～配線に関して～

❗ **配線工事は、有資格の電気工事業者が行なうこと。**
感電のおそれがあります。

❗ **アースは、D 種接地工事（旧称：第３種接地工事）を行なうこと。**
感電のおそれがあります。

❗ **主幹には漏電ブレーカーを設置すること。**
異常時などの場合、漏電遮断装置を「切」にしないでそのまま使用すると故障や感電、火災の原因になります。

蓄熱暖房器それぞれに単独のブレーカーを設置すること。
異常時などの場合、ブレーカーを「切」にしないでそのまま使用すると故障や感電、火災の原因になります。

屋内配線の最小電線太さ及び配線用遮断器は、内線規程に従ったサイズ・定格値のものを使用すること。
火災のおそれがあります。

ケーブルは本体接続済みの耐熱ケーブルを使用すること。
火災のおそれがあります。

配線は、極力本体裏面に接触しない様に適切な長さで結線すること。
火災のおそれがあります。

ケーブル同士をよじるなどして結線しないこと。
火災のおそれがあります。

圧着端子（スリーブなど）を使用し適切に結線し絶縁処理を施すこと。
感電のおそれがあります。

ファン運転用として単相交流 100V、蓄熱用として単相交流 200V を確保すること。
本体故障や誤動作のおそれがあります。

本機種は、タイムスイッチを搭載しておりません。深夜電力契約で使用するかまたは時間帯別電灯契約で使用する場合は蓄熱時間を設定するため、タイムスイッチを接続してください。
電気代が高くなる場合があります。

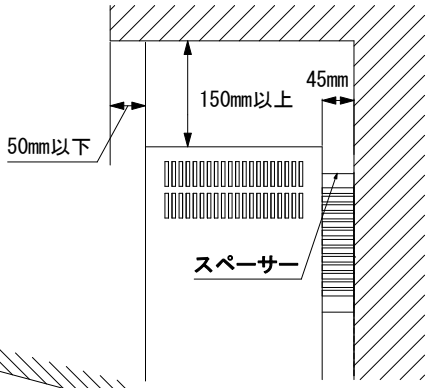
外付けルームサーモスタット（別売品）は次のような場所では使用しないでください。
直射日光のあたる場所、カーテンなどがかかる場所、暖房器、窓、ドアが近くにある場所、0℃以下、+５０℃以上の場所、
屋外などの雨や日光の直接当たる場所、結露が生じる場所、亜硫酸ガスやアンモニアなどの腐食性がある場所、
湿気や粉塵の多い場所、振動や衝撃の発生する場所、高周波ノイズ・電界・磁界の強い場所
誤動作・故障・漏電の原因になります。

⚠ 離隔距離に関しての注意

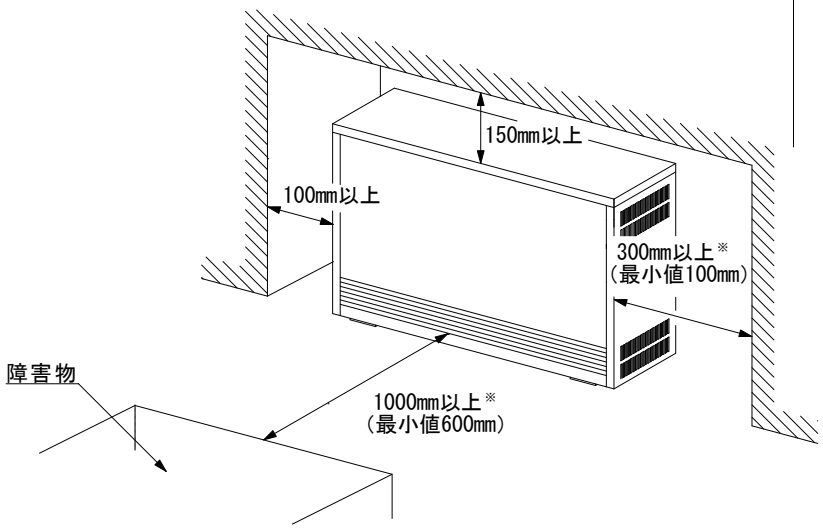
カーテンなどの可燃物に対して以下の離隔距離を確保すること。
離隔距離は、正常に作動するために必要な最低限の寸法です。
周囲の仕上げ材などの変色・変形しないことを保障するものではありません。

- 左面方向 ・・・・・・・・・・ 100mm 以上
- 右面方向 ・・・・・・・・・・ 300mm 以上※
  （最小値 100mm）
- ならべて設置する場合 ・・・・ 300mm 以上
- 上面方向 ・・・・・・・・・・ 150mm 以上
- 背面方向 ・・・・・・・・・・ 45mm
  （付属の壁付け用スペーサーで確保します。）
- 前面方向 ・・・・・・・・・・ 1000mm 以上※
  （最小値 600mm）

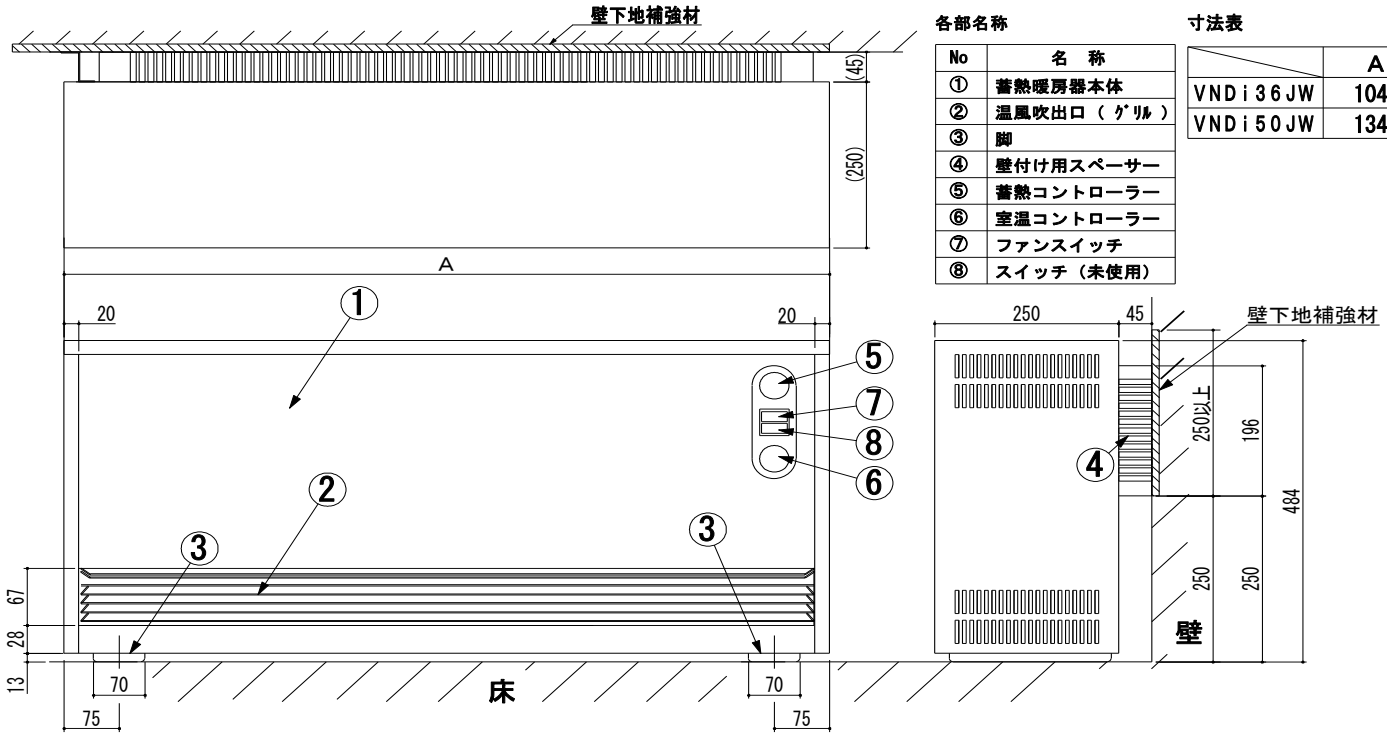
※メンテナンススペースとして必要です。



離隔距離



取付寸法図



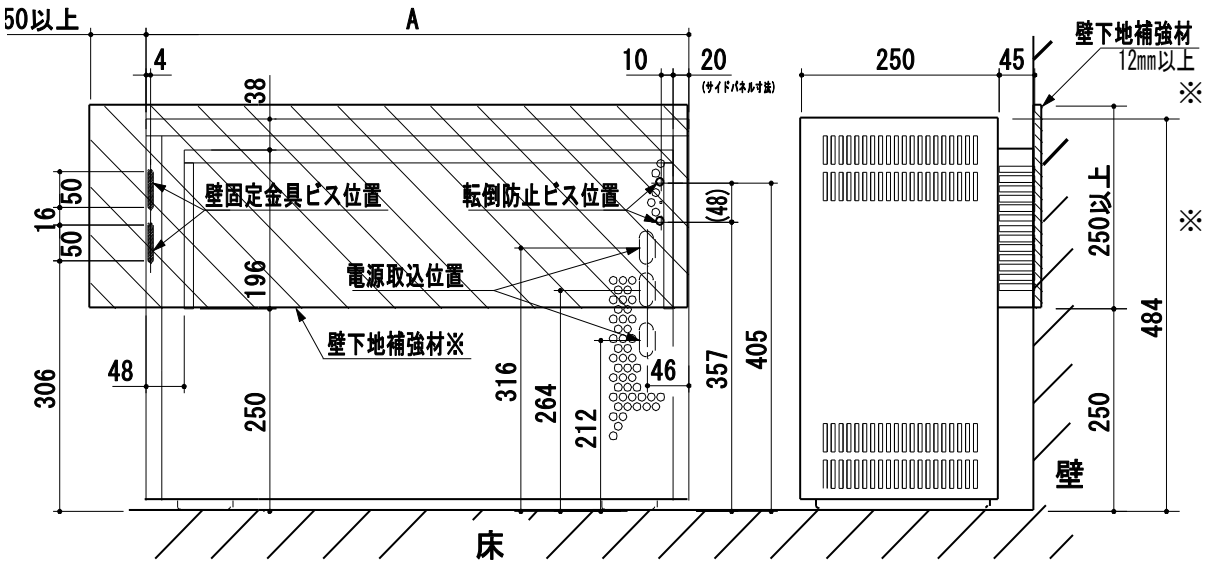
各部名称

No	名　称
①	蓄熱暖房器本体
②	温風吹出口（ｸﾞﾘﾙ）
③	脚
④	壁付け用スペーサー
⑤	蓄熱コントローラー
⑥	室温コントローラー
⑦	ファンスイッチ
⑧	スイッチ（未使用）

寸法表

	A
VNDi36JW	1040
VNDi50JW	1340

＜正面視＞



※　壁下地補強材は柱（間柱）などに強固に固定してください。

※　本機器に付いているコンセントプラグは、H寸＝55㎜ですので、離隔距離に納まらないようになっています。
スペーサー幅＝45㎜

オプション部品

既築住宅など壁下地補強材が困難な場合のオプション品として、以下商品もご用意しております。（別売品）
詳しくはカタログまたは販売店にご確認ください。

■ **ファン付タイプ専用本体固定金具**　（既築住宅にも簡単施工ですっきり設置できます。）
■ **不燃バックパネル**　（電気蓄熱暖房器のよりすっきり・スマートな施工に。安心感をさらに高める不燃材のパネルです。）

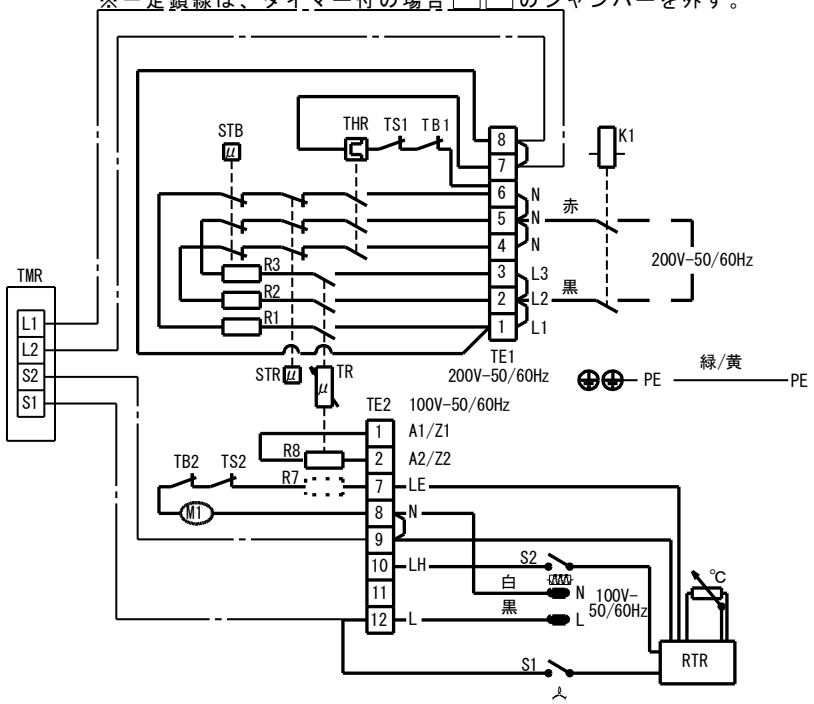
蓄熱暖房器を出窓下などに設置し、周囲の壁（特に本体右下部分）との離れが狭い場合のオプション品として、以下商品もご用意しております。（別売品）　詳しくはカタログまたは販売店にご確認ください。

■ **外付けルームサーモスタット**　（本体から離れたところでも室温設定ができるコントローラーです。）

配線図

（1）内蔵ルームサーモスタット回路図

※一定鎖線は、タイマー付の場合 8 7 のジャンパーを外す。



K1	電源ブレーカー(施工業者手配)
N/L1L2L3	200Ｖ電源接続端子(電源コード)
PE	アース接続端子
N/LE/LH	ルームサーモ接続端子
N/L	100Ｖ電源接続端子（電源コード）
M1	ファンモーター
R1R2R3	シーズヒーター
R7	ファン直列抵抗
R8	制御抵抗
TR	蓄熱コントローラー
STR	安全温度スイッチ（自動復帰型）
STB	安全温度スイッチ（手動復帰型）
RTR	ルームサーモスタット
S1	ファンスイッチ
S2	未使用スイッチ
THR	サーマルリレー
TS1,TS2	チルトスイッチ（転倒時電源遮断ｽｲｯﾁ）
TB1,TB2	吹出温度過昇防止装置
TMR	タイムスイッチ

配線仕様

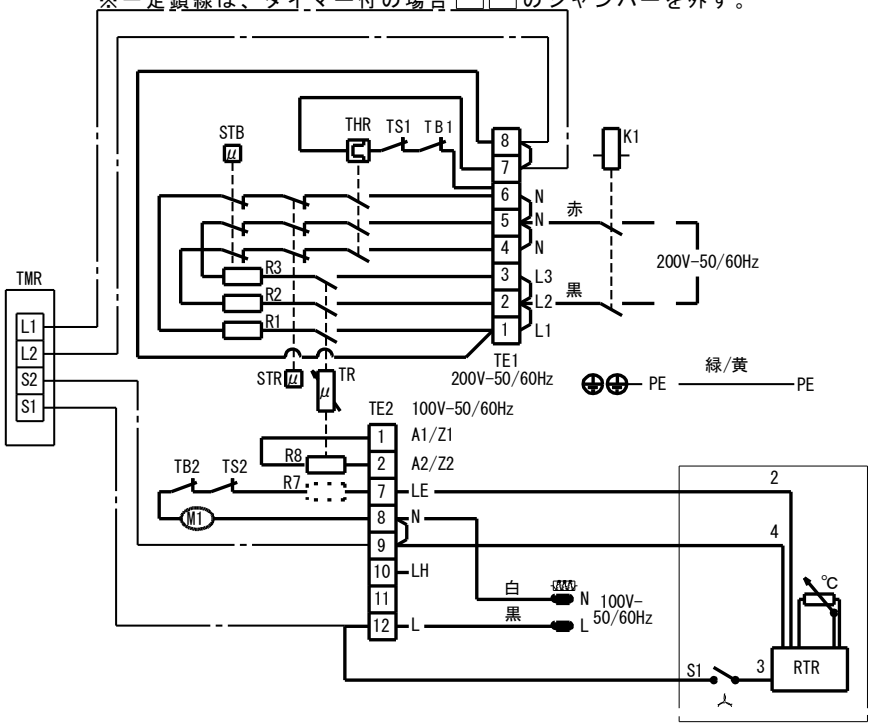
名称	色
200V (N)	赤
200V (L)	黒
200V (PE)	緑/黄
100V (N)	白
100V (L)	黒

タイムスイッチ 取付上のご注意

タイムスイッチを取り付ける場合、200V端子台「TE1」の7，8番を短絡する銅ブリッジは必要ありません。付いている場合は取り外して下さい。

（2）外付けルームサーモサーモスタット回路図

※一定鎖線は、タイマー付の場合 8 7 のジャンパーを外す。



K1	電源ブレーカー(施工業者手配)
N/L1L2L3	200Ｖ電源接続端子(電源コード)
PE	アース接続端子
N/LE/LH	外付けルームサーモ接続端子
N/L	100Ｖ電源接続端子（電源コード）
M1	ファンモーター
R1R2R3	シーズヒーター
R7	ファン直列抵抗
R8	制御抵抗
TR	蓄熱コントローラー
STR	安全温度スイッチ（自動復帰型）
STB	安全温度スイッチ（手動復帰型）
RTR	外付けルームサーモスタット
S1	ファンスイッチ
S2	未使用スイッチ
THR	サーマルリレー
TS1,TS2	チルトスイッチ（転倒時電源遮断ｽｲｯﾁ）
TB1,TB2	吹出温度過昇防止装置
TMR	タイムスイッチ

配線仕様

名称	色
200V (N)	赤
200V (L)	黒
200V (PE)	緑/黄
100V (N)	白
100V (L)	黒

タイムスイッチ 取付上のご注意

タイムスイッチを取り付ける場合、200V端子台「TE1」の7，8番を短絡する銅ブリッジは必要ありません。付いている場合は取り外して下さい。

配線工事

●配線工事をする前に、「安全上のご注意」（本書３・４ページ）をよくお読みになり、施工に関する安全が確保されていることを確認してください。

●幹線及びブレーカー容量について下表を参考にして選定してください。
（屋内配線は内線規程に従って配線を行なってください。）

～２００Ｖケーブル【８時間蓄熱型】～

型番	耐熱ケーブルサイズ	分岐回路の最小太さ		配線用遮断器の定格電流
		VV ケーブル	CV ケーブル	
VNDi 36JW	5.5mm^2×3C（長さ：約 1m）	直径 2.6mm（5.5mm^2）	2.0mm^2	30A
VNDi 50JW	5.5mm^2×3C（長さ：約 1m）	直径 3.2mm（8.0mm^2）	3.5mm^2	40A

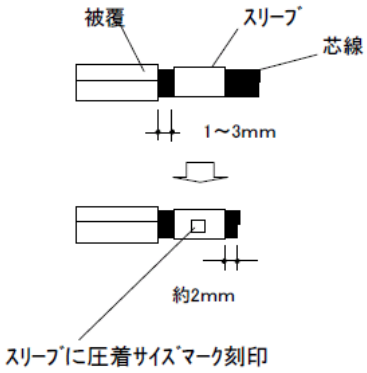
～１００Ｖケーブル～

型番	耐熱ケーブルサイズ	屋内配線最小電線径（銅線）	配線用遮断器の定格電流
全型番	1.25mm^2×2C（長さ：約 1m）	直径 1.6mm（2mm^2）	

※ 配線工事は、有資格の電気工事業者が行ってください。
※ 電源ケーブルは本体背面右側から出ています。（5 ページ参照。）
※ アースは、D 種接地工事（旧称：第 3 種接地工事）を行ってください。
※ 200V ケーブルの結線はコンセントなどを使用せず、直接接続してください。（内線規程）
※ 電源ケーブルは、極力本体裏面に接触しない様に適切な長さで結線すること。
※ 電源ケーブルの接続はジョイントボックス内で行ってください。

配線工事時の注意点

> ⚠ 注意
>
> 本体ケーブルと屋内配線の接続の際は、下記の事項に注意してください。
>
> 1. 圧着工具はスリーブに適合した圧着ペンチ（JIS 適応品）を使用する。
> 2. 圧着スリーブは、使用電流・電線の本数・サイズに適合したものを使用する。



1 スリーブによる電線の圧着接続

(1)電線のくせを直し、ワイヤストリッパ等で被覆をはぎとる。
(2)はぎ取る長さはスリーブ長さより約 10㎜程度長くする。
(3)芯線をまっすぐにして、スリーブを入れる。
(4)圧着ペンチを強く握りしめて口を開き、スリーブを適合サイズのダイスにはさみ、ペンチを軽く握りくわえさせる。
(5)接続する電線の先端をそろえて、スリーブに差し込む。被覆までの長さは本数により 1～ 3㎜程度とする。
使用するスリーブは電線の本数・サイズにより適合サイズを選択する。
(6)圧着ペンチのハンドルを握り、圧力規制装置が外れるまで荷重を加え圧着するとハンドルは自力で全開する。開かない時は、さらに強く握る。
(7)芯線をスリーブの先端から約 2㎜位残して切断する。
(8)絶縁処理は、ビニール絶縁テープ巻とする。


圧着ペンチ
(JIS適応

2 適合スリーブ表 （参考）

蓄熱暖房器の耐熱ケーブル	屋内配線の電線太さ	P型スリーブ
2.5 mm^2	直径1.6mm(2.0 mm^2)	5.5
3.5mm^2	直径1.6mm(2.0 mm^2)	5.5
5.5mm^2	直径1.6mm(2.0 mm^2)	8
	直径2.6mm(5.5 mm^2)	14
	直径3.2mm(8.0 mm^2)	14
8.0mm^2	直径3.2mm(8.0 mm^2)	14
	14.0 mm^2	22

※接続の方法は、内線規定第 1335-7【電線接続】及び 1335-8【電線接続の具体的方法】1-③- ｆ.「直線重ね合わせ用スリーブ（P 型）による接続」による。

梱包内容の確認

① 下記の付属品が全て揃っているか確認してください。

本体正面側
・取扱説明書（保証書付）　・施工説明書（本書）

本体上面側
・転倒防止ビスセット（転倒防止ビス X2、ワッシャ X2、コンクリート壁用プラグ X2、注意ステッカー）
・壁付用スペーサー　・蓄熱コントローラーつまみ　・室温コントローラーつまみ

本体背面側
・壁固定金具セット（壁固定金具 X1、ネジ（M5X１２）X2、ビス（5X４５）X3、ワッシャ X3、
コンクリート壁用プラグ X3、壁固定金具用ビスキャップ X3）
・吸込みネット
・100V 用プラグ
・耐熱ケーブル 200V・100V（本体接続済み）

本体内部
・シーズヒーター（３本、本体組付・接続済み）

② 蓄熱レンガの個数を確認してください。（別梱包）
（２ページ「仕様一覧表」参照）

設置順序

●本体設置をする前に、３・４ページ「安全上のご注意」をよくお読みになり、補強材・不燃材の使用、離隔距離の確保など、施工に関する安全が確保されていることを確認してください。

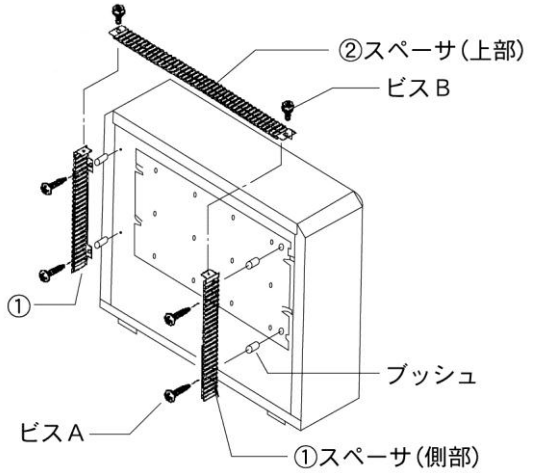
●蓄熱暖房器は大きいもので約 300kg となります。本棚・ピアノもこの程度の重さがありますので、本体を設置する床には重量家具同様の根太補強をしてください。

●じゅうたん・クッションフロアー・畳などの上に直接設置しないでください。以下のような不燃材を敷き、その上に蓄熱暖房器を設置してください。
・じゅうたんの上 ・・・・・・・ 10mm 以上の強固な不燃材の敷板
・クッションフロアーの上 ・・ 厚さ 10mm 以上の珪酸カルシウム板
・畳の上 ・・・・・・・・・・・ 板畳
暖房器前面側にじゅうたん・クッションフロアー・畳などがある場合は、暖房器前面より 10cm 以上離れるように設置してください。

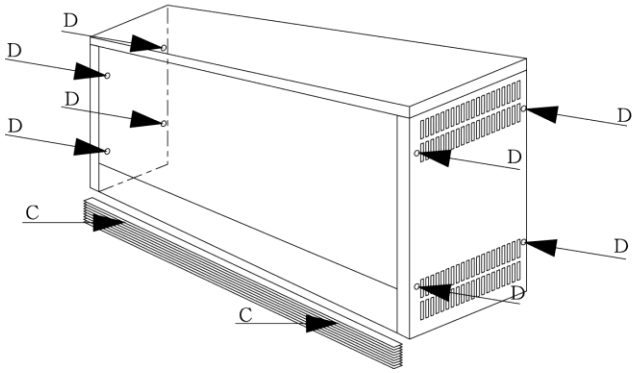
●背面の壁材の仕上げは、準不燃クロス、石膏ボードや珪酸カルシウム板などの不燃材を使用してください。

レンガ積込み作業の前

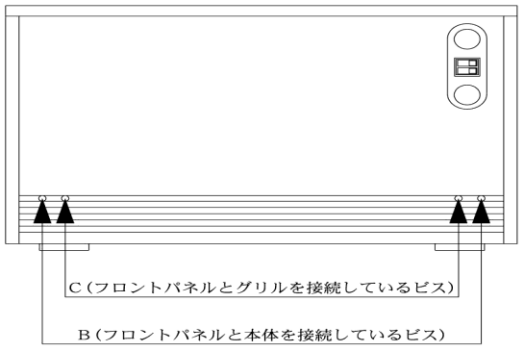
1 ①のスペーサをブッシュと一緒にビス A で止め（4 箇所）、次に②のスペーサをビス B で止めます（2 箇所）。



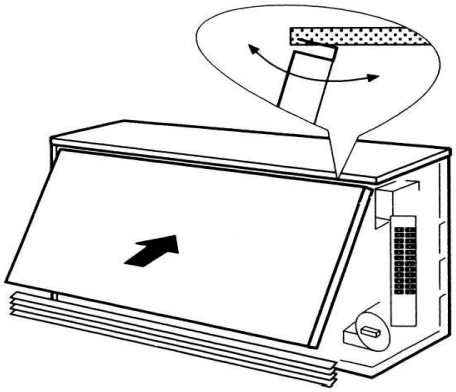
2 D のビスを取外し（８箇所）、本体左右側面のサイドパネルを取り外します。



3 Bのビスを取外します。
※フロントパネルを取外す際、外しにくいときはCのビスを取外してください。



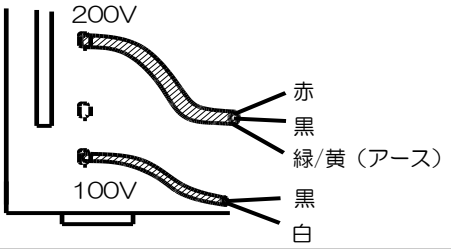
4 フロントパネルを手前に引き、上面のツメから取外します。



注意
- 右サイドパネルは室温センサーケーブルで本体基板とつながっていますので注意して取外してください。

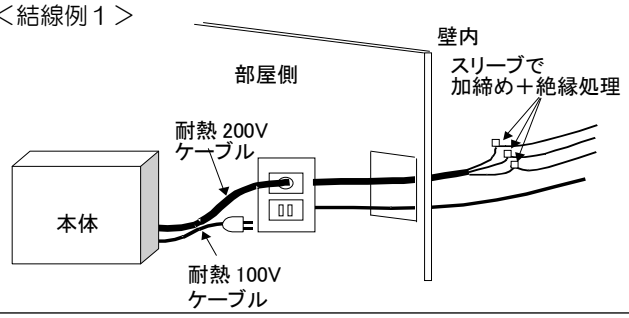
注意
- 金属端面によるケガや高温部接触によるやけどを防止するため、工事を行なう際は手袋を着用してください。

5 200V、100V の電源ケーブルの配線接続を行ないます。（6ページ「配線図」参照）

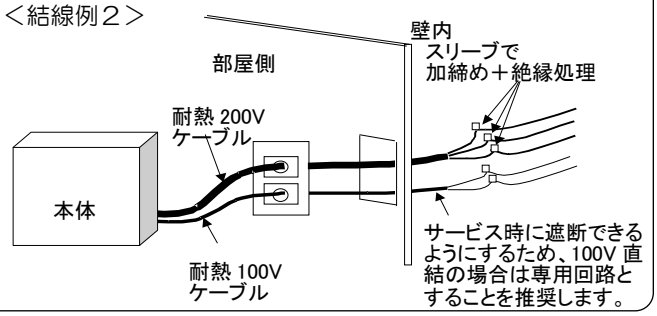


注意
- 設置時には、ブレーカーを「切」にしてください。
- ２００Ｖケーブルの結線はコンセントなどを使用せず、直接接続で行なってください。（内線規程）
- 配線接続後は、全ての端子台を増し締めしてください。

＜結線例１＞



＜結線例２＞



※電源ケーブルの接続はジョイントボックス内で行ってください。
※コンセントカバーを使用する場合は、結線をする前に耐熱ケーブルにカバーを通してください。
※本機器に付いているコンセントプラグは、H 寸=55mm ですので、本書に記載の離隔距離に納まらないようになっています。スペーサー幅：45mm

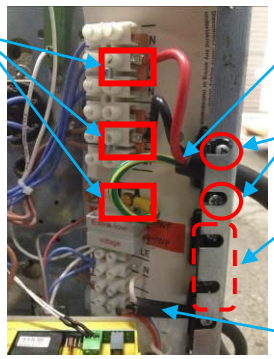
【オプション品の「本体固定金具」を設置する場合】
200V 電源ケーブルと本体固定金具が干渉する場合があるため、施工時にケーブルの位置変更が必要となります。
ケーブル位置変更手順は以下のとおりとなります。

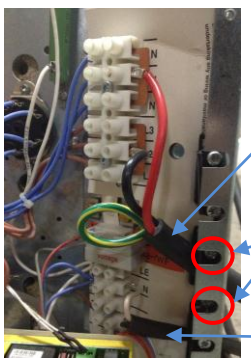
① 本体の右サイドパネルを取り外し、上段のケーブルクランプ用ネジｘ２箇所をゆるめ、２００V 電源ケーブルをはずします。

② 200V 電源ケーブルを中段の空き位置に通し、ケーブルクランプ用ネジｘ２箇所を固定します。

端子台ネジ

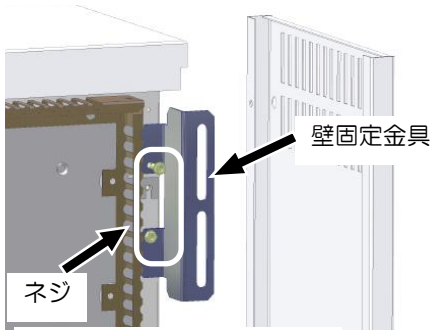
注意
- 端子台のネジは規程トルクで固定されているため、端子台のネジをゆるめず、ケーブルをはずしてください。



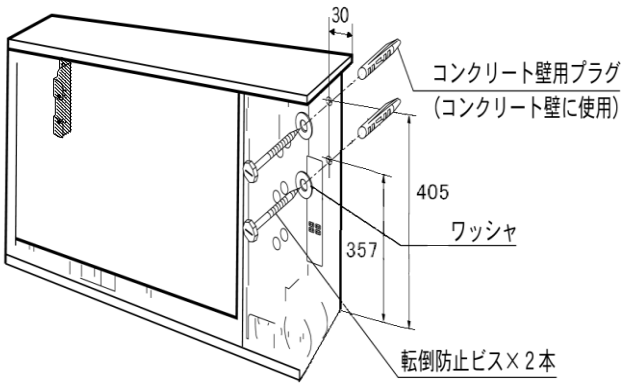


6 地震などによる転倒防止のため、下記のように転倒防止ビス、壁固定金具を取付けます。
【壁固定（右）】下図の寸法位置に、転倒防止ビスを２ヶ所取付けます。
【壁固定（左）】下図の寸法位置に、壁固定金具を取付けます。
①本体背面にネジ（M５×12）で壁固定金具を固定します。
②壁固定金具の長穴にビス（５×45）＋ワッシャで本体を固定し、その後、ビスキャップを被せます。（３ヶ所）

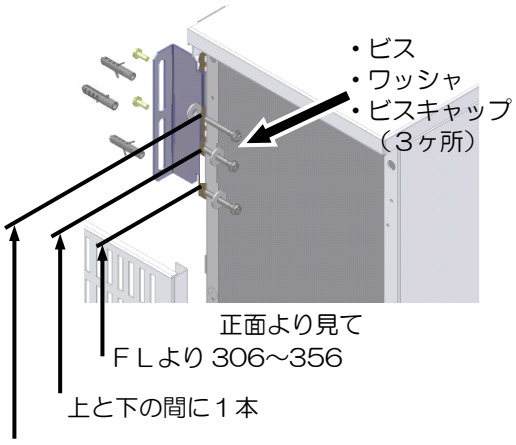
①



背面より見て



②

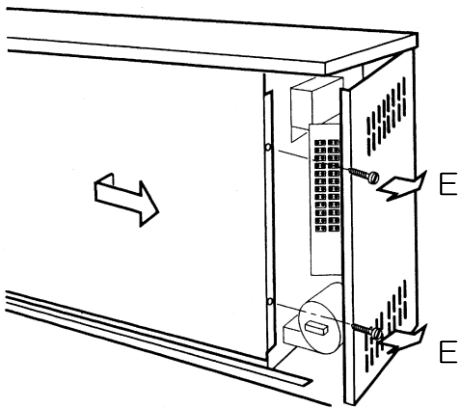


正面より見て
ＦＬより 306～356
上と下の間に１本
ＦＬより 372～422

⚠ 注意

- ビスは、下地材を施工している場所に取付けてください。（転倒防止ビスセットは本体上部に、壁固定金具セットは本体背面下部に同梱しています。）
- 下地材厚みは、12mm 以上の合板もしくは同等以上の強度を持つものを施してください。

7 ビスＥを取外し、前面断熱板を開けます。
（前面断熱板の右側を矢印方向に手前に引き、右方向に引抜きます。）



※ 断熱材を傷つけないように注意してください。

8 輸送用の保護ダンボールを取外します。
（シーズヒーターの取扱いにご注意ください）



⚠ 注意

- 保護ダンボール（ダンボールくずも含む）が本体内部に残らないよう確実に除去してください。

レンガ積込み作業

1 １本目のシーズヒーターを持ちながら、右下から順にレンガを積んでいきます。その後、２ 段目のレンガを積みます。レンガは全て、窪み面を上にして積込んでください。

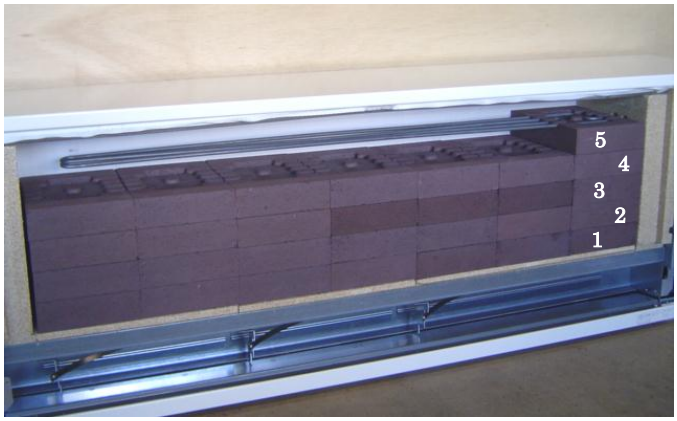
※ 窪み面を互い違いに積みますと、蓄熱量不足などのおそれがあります。



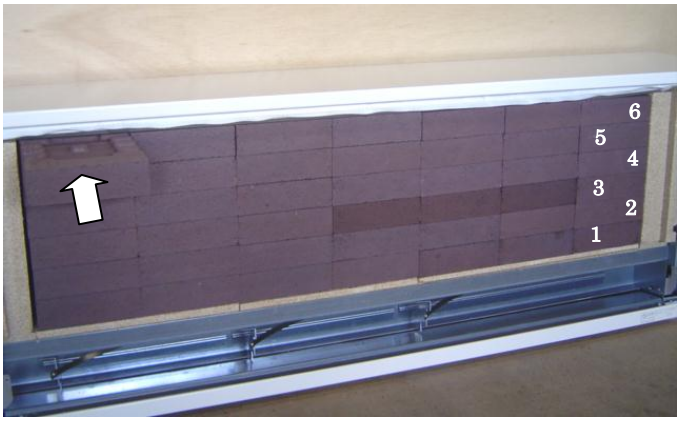
2 ２本目のシーズヒーターを持ちながら、シーズヒーターの下に３段目のレンガを積みます。その後、４ 段目のレンガを積みます。



3 ３本目のシーズヒーターを持ちながら、シーズヒーターの下に５段目のレンガを積みます。



4 ６段目のレンガを積みます。



※ シーズヒーターは、レンガの 1-2 段の間、3-4 段の間、5-6 段の間に合計 3 本セットされます。

※ レンガの積込みが終わりましたら、配線スペース及び温風吹出しスペースの清掃をしてください。

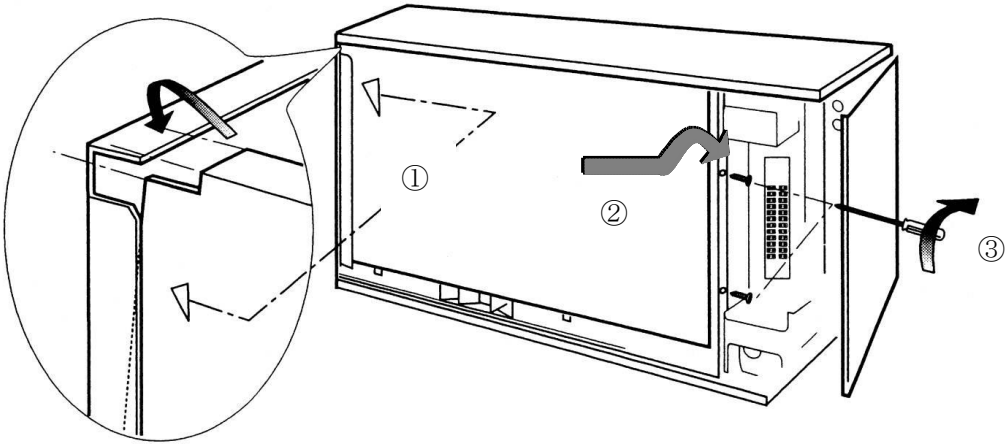
レンガ積込み作業の後

1 前面断熱板を取付けます。

①前面断熱板左端が本体つば部分の間に入るように差し込みます。

②前面断熱板右端を断熱材と本体のつばの間に入るように差し込みます。

③この際、前面断熱板のネジ受けの切り口と本体のネジ穴をあわせ、しっかりと固定します。

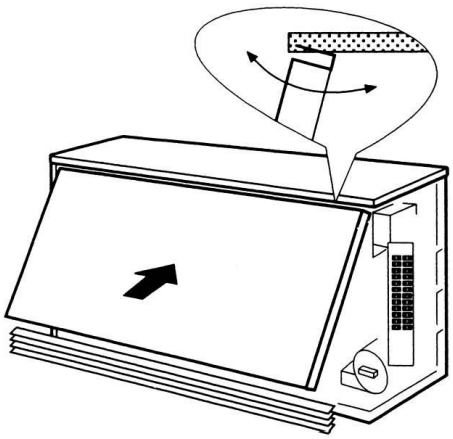


2 スイッチ部分の蓄熱コントローラーキャップを取り外します。



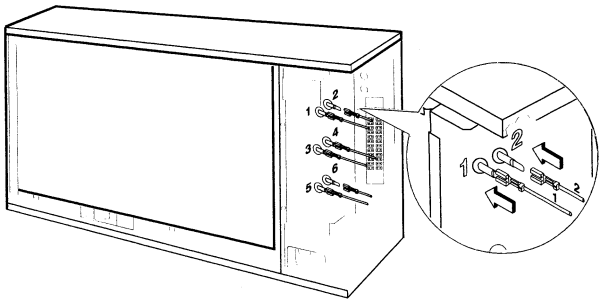
蓄熱コントローラーキャップ
※フロントパネルの内側から
押しはずしてください。

3 フロントパネルを取付けます。トップパネル上部の受け部分を少し押し上げる様にしてはめ込みます。

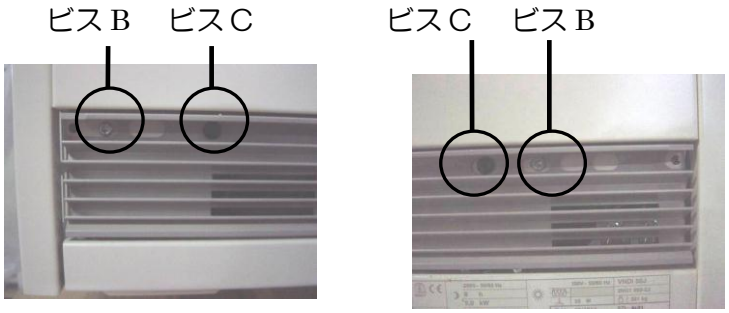


⚠ 注意

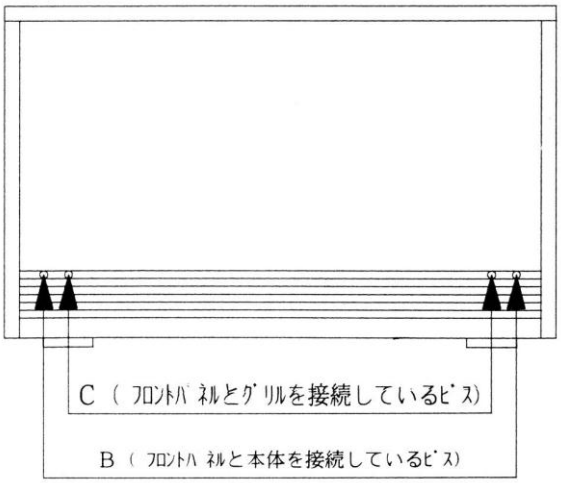
レンガ積込み作業後に、シーズヒーター端子接続部のゆるみ及び抜けがないことを確認してください。



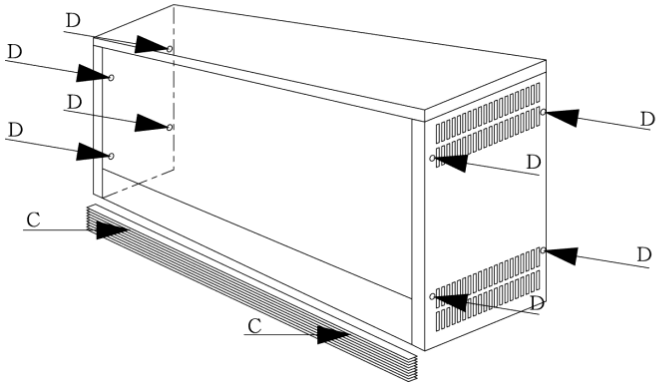
4 フロントパネルをビスＢで固定し、グリルをビスＣで固定します。



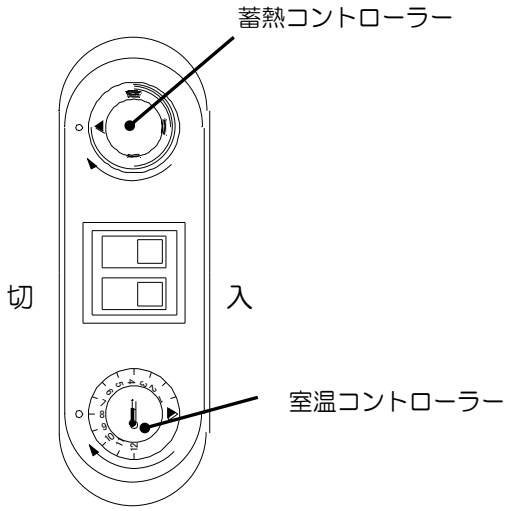
※ビスＢ、ビスＣは締めすぎると音鳴りする場合がありますので半回転程度ゆるめてください。



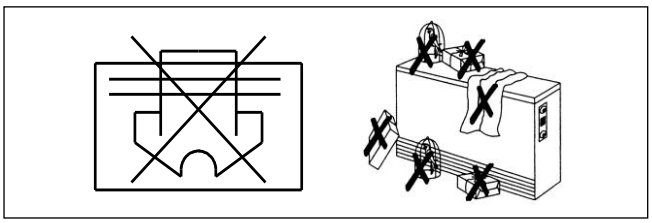
5 ビスＤでサイドパネルと本体を固定します。
ネジ穴が深く、ネジが締めにくい場合は、磁石付きドライバーを使用することをお薦めします。



6 蓄熱コントローラーつまみ、室温コントローラーつまみを取付けます。



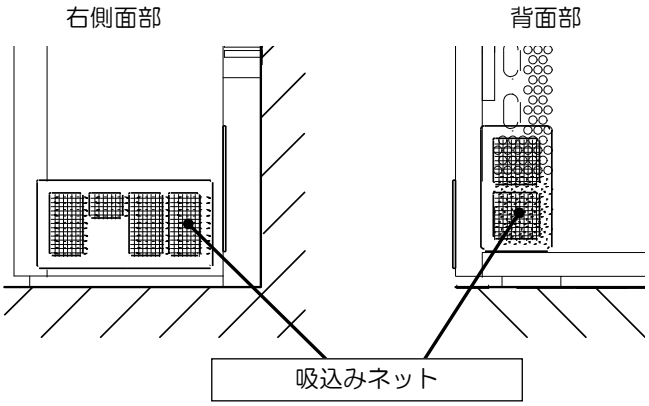
7 注意ステッカー（転倒防止ビスセットに同梱）を、トップパネルなどお客様の目に届く位置に貼付けてください。



注意ステッカー

⚠ 注意
グリル付近などは高温になりますので避けてください。

8 ファンへのほこり低減のため、吸込みネットを取り付けます。吸込みネットは、裏面がマグネットになっており、そのまま下図のように貼りつけることができます。
※吸込みネットは、本体背面に同梱されています。

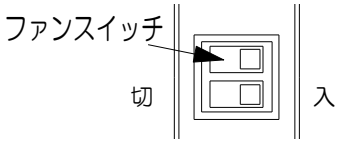
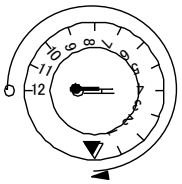
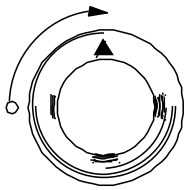


試運転

●需要家様への引渡し前に、必ず試運転チェックを行ってください。

●湿気及びにおいとりのため、需要家様引渡し前に十分換気しながら、必ず蓄熱運転してください。

●需要家様引渡しに際して、本体に同梱してある「取扱説明書」をお渡しの上「コントローラー部分の説明」「使用方法」について説明してください。

	試運転手順	内容
1	絶縁抵抗の測定	**電気用品安全法の技術基準に基づき、絶縁抵抗が１ＭΩ以上あるか確認してください。** ※ 使用開始時や長時間使用していなかった場合は、蓄熱レンガ・断熱材・シーズヒーターの吸湿により絶縁抵抗の減少（０．２ＭΩ以下）が起きたり、運転開始後数時間でブレーカーが誤作動するなどの現象が起こる可能性があります。 このような場合は、正しく結線されていること、蓄熱レンガ・断熱材・シーズヒーターを乾燥させ絶縁抵抗が回復している事を確認後、再度通電をしてください。 ※ 通電直後にブレーカーが作動する場合は、結線の誤りです。再度配線図を確認して結線をやり直してください。（本体２００Ｖ用ケーブルの緑/黄線はアース線です。）
2	ファン動作確認	**①１００Ｖブレーカーを「入」にしてください。** **②「ファンスイッチ」を「入」にしてください。**  **③「室温コントローラー」を「１２（目盛り最大）」にしてください。**  **④ファンが回転し、吹出口より風が出ることを確認します。** ※室温の設定範囲は、10℃～30℃の範囲です。 ※夏季の設置時に 30℃を超える場合は、室温センサー付近を冷やしてください。 **⚠ 注意** 回転中のファンには触れないでください。怪我をする恐れがあります。
3	蓄熱動作確認	**①２００Ｖブレーカーを「入」にしてください。** ※深夜電力契約などでタイマーが「切」になっている場合は、「入」にしてください。 ※２００Ｖ端子（ＴＥ１端子）のＬ－Ｎ間の電圧を測定し、２００Ｖが通電されているか確認してください。 **②蓄熱量設定を４０%にします。** 「蓄熱コントローラー」を「　（　」にあわせ蓄熱量設定を４０%にします。  **④２００Ｖ端子（ＴＥ１端子）の電流を確認します。** 型番の末尾 / 36JW / 50JW 定格電圧 / 単相ＡＣ200V 定格消費電力 / 3.6kW / 5.0kW 定格電流 / 18A / 25A **⚠ 注意** 蓄暖が通電中、通電直後には高温部に触れないでください。やけどのおそれがあります。
4	終了	**シーズンオフなどで暖房器を長時間お使いにならない時は、** **①ファンスイッチを「切」にしてください。** **②蓄熱量設定を「切　◀　」にしてください。** **③２００Ｖブレーカーを「切」にしてください。**

設置場所を移動する場合

本商品を移設する場合は、再度、9～１４ページ「設置順序」、１５ページ「試運転」を行い、機器が正常に作動するか確認を行なってください。
移設の場合は、特に断熱材を破損させない様に注意してください。

故障かな？と思ったら

症状	調べる所	対処方法
暖房器が暖まらない。	200V 電源ブレーカーが「切」になっていませんか。	200V 電源ブレーカーを「入」に設定してください。
	蓄熱量を低い設定にしていませんか。	蓄熱量設定を大きくしてください。（2 ページ参照）
温風が出ない。	上記”暖房器が暖まらない”をまずご確認ください。	
	１００V 電源ブレーカーが「切」になっていませんか。	100V 電源ブレーカーを「入」に設定してください。
	ファンスイッチが「切」になっていませんか。	ファンスイッチを「入」に設定してください。（2 ページ参照）
	室温コントローラーの設定が低くなっていませんか。	室温設定を高くしてください。（2 ページ参照）
	暖房器前面が塞がれていませんか。	前面に置いてあるものを移動し、離隔距離を確保してください。（4 ページ参照）
お部屋が暖まらない。	上記”暖房器が暖まらない”、”温風が出ない”をまずご確認ください。	
	ドアや窓が開いていませんか。	ドアや窓を閉めてください。
室温が高すぎる。	室温コントローラーの設定が高すぎませんか。	適切な目盛りまで下げてください。（2 ページ参照）
	蓄熱量が適切に設定されていますか。	蓄熱量設定を小さい目盛にしてください。（2 ページ参照）
ブレーカーが落ちる	漏電又はショート。	絶縁抵抗が１MΩ以上あるか確認してください。
		配線が本体や端子に触れていないか確認してください。
		アース線、電源線の接続が正しいことを確認してください。
		ブレーカー容量が正しいか確認してください。

次の場合は故障ではありません

症状	調べる所	対処方法
本体から音が鳴る。	蓄熱時やファン運転時の音ですか。	蓄熱時、ファン運転時を問わず、熱の影響による金属の熱膨張・収縮による音や、床との摩擦による音が鳴りますが、異常ではありません。
	ファン運転開始及び停止直後の音ですか。	
	「カチッ」という音ですか。	ヒーターへの通電を「入」「切」するスイッチ（リレー）動作音で、異常ではありません。
においが出る。	初めてお使いになる場合、長期間使用していなかった場合は、ホコリや湿気でにおいが出る場合が有ります。 この時、お部屋は十分に換気した上で運転してください。	